

キヤノン株式会社

2023 年第 3 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

Q1. 前回公表からの売上変化について内訳を教えてください。

A1. 為替を除くと約 2,000 億円のマイナスとなっている。主な内訳は、プリンターが減速したプリンティングが約半分、商談や設置が延伸したメディカル、インダストリアルで約 300 億円ずつ、価格下げやモデルミックス影響等によりイメージングで約 400 億円となっている。

Q2. 第 4 四半期の営業利益率 11.7%をどの様に達成するか、教えてください。

A2. 主には売上拡大による粗利の増加によるものとなる。複合機、メディカル、インダストリアルは受注が積みあがっており、大きく売上を伸ばす計画となっている。また収益性の高いプリンター消耗品のオーダーが第 4 四半期は増加しており、売上・利益に寄与する見込み。

Q3. プリンターの市中在庫について、状況を教えてください。

A3. インクジェットは地域によってバラつきはあるが、アジア地域でまだ高い。レーザープリンターは引き続き出荷調整をかけている状況で、年末には適正水準に戻ると見込んでいる。

Q4. レーザープリンターの需要動向と、競争環境について教えてください。

A4. 出荷調整が必要な状況が続いているが、年末には終了し、来年からは通常の状態に戻っていく。カラー中高速機は販売を伸ばせており、数字程は悪くない。プリンター市場では、競合の価格攻勢が見られるが当社は収益重視のオペレーションで進めている。

Q5. カメラ市場について、今年および来年の見通しはどのように見ているか。

A5. 今年の市場全体の数量見通しは年初に見込んだ 585 万台から変わらず、現時点では来年度の販売台数も同水準を見込んでいる。当社の販売も計画通りに進んでおり、290 万台で変わらないが、想定よりエントリーモデルの販売割合が増えている。

Q6. ナノインプリントの今後の売上規模や展開を教えてください。

A6. ナノインプリントは、今月 13 日に商品化を発表し、様々なお客様と商談を進めているところで、現時点ではまだお答えできる段階ではない。

Q7. 「減産」について対象製品や開始時期、今後の利益影響について教えてください。

A7. 年初から在庫が積み上がっていたため、上期からプリンターを中心に全社的に減産計画をたてて動いていた。減産は当期の計画に織り込んでおり、利益の下振れはない。

キヤノン株式会社

2023 年第 3 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

Q8. 来年度の営業利益の考え方を、教えてほしい

A8. グローバル優良企業構想フェーズⅥの 2025 年目標達成にむけて、2024 年度は売上を伸ばすとともに、利益率向上のために、より付加価値を向上させる取り組みをしていく方針である。具体的な数字については、時期が来たら発表する。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれていません。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。